# グローバル人材育成の試み（１）
## ―イオン1%クラブ主催アジア・エコリーダーズに生徒を派遣して ―

副校長　　石　井　朋　子
地理歴史科（地理）　菊　池　美千世
英語科非常勤講師　　作　田　久美子

### １．アジア・エコリーダーズ参加までの経緯、概要

イオン１％クラブが主催し、インドネシアのジャカルタを中心に 2013 年８月 18 日（日）～ 28 日（水）に行われたアジア・エコリーダーズに、10 名の生徒と教員１名が参加した。イオン１％クラブは、イオンの主要各社の税引き前利益の１％を使って、社会貢献活動を行うために作られた組織である。前年度（2012 年）には、日中国交正常化 40 周年を記念する日中高校生交流事業として、日本と中国の高校生 100 名ずつが相互訪問・学校交流・ホームステイなどを行うプログラムを主催し、本校からも 15 名の生徒が参加した。

アジア･エコリーダーズの大学生コースは 2012 年から実施されていたが､高校生コースの実施は初めての試みであった。イオン１％クラブから届いた参加要請書には以下のような目的が記されていた。

- 日本、中国、アセアン諸国の青少年が環境について多国間交流や環境問題をテーマとしたディスカッションを行うとともに、環境リーダーを育成する。
- 第１回のテーマはゴミ問題とし、「捨てればゴミ、使えば資源」に象徴されるゴミの３Ｒ問題について、ジャカルタ市政府に対し、市民への啓蒙キャンペーンを提案するとともに、参加者同士の交流を深める。
- 参加国は日本、中国、インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナムの６カ国、高校生 90 名が 10 チーム（1 チーム９名）に分かれてディスカッションを行う。
- 日本からの参加者 20 名、参加校はお茶の水女子大学附属高等学校および、東京都立西高等学校

今まで本校が経験したことのない国際交流の内容であったので、生徒募集、参加者の決定、事前指導、準備、10 日間のプログラムの実施、事後指導のすべてが手探りであった。参加した生徒、送り出した学校ともに、困難なことも多くあったが、また同時にこの経験から得られた知見は大変大きなものがあったと考えている。ここに記録をとどめ、今後の国際交流・グローバル人材育成の手がかりとしたい。（石井）

### ２．生徒募集と選考

イオン１％クラブからの要請は「ゴミ問題についての英語によるディスカッション

ができる生徒を都立西高校と合せて 20 名ご推薦ください」ということであった。両校の生徒数などを勘案して、本校での募集は８名とした。昨年の日中高校生交流事業よりかなりハードルが高いので、希望者がたくさんは出ないのではないかと予想していた。実際は予想がはずれ、１年生 15 名、２年生 13 名、合計 28 名の応募があり、派遣生徒の選考が必要となった。最終的には都立西高校との話し合いで、各校からの参加者は 10 名ずつとした。

選考は、①環境問題に対する興味・関心、②英語によるコミュニケーション力 の２点を柱として行った。そこで、応募者全員に資料①に示す選考資料レポートの提出を求めた。問いの１は上記の①に該当し、おおよそＢ５判用紙１～２枚の分量とした。これについては中には英語で書いてきた者、日本語と英語両方で書いてきた者もあった。②の英語によるコミュニケーション力については、２年生は１年次の英語の成績およびベネッセ英語コミュニケーション力テスト（G-TEC）の成績および英語検定の取得級を評価対象とした。１年生についてはこの時期まだほとんど評価するべきデータがなく、入学検定試験における英語の成績と英語検定の取得級を評価対象とした。今回の応募者の中には何人か海外在住経験のある者もいたが、英語で教育を受けていたという例はほとんどなかった。最終的には各学年を担当する英語の教員、担任教員の意見も参考とし、１年生５名、２年生５名を決定した。申請書（英文)、参加同意書を用意してイオン１％クラブ事務局に提出、旅券のコピーの用意を参加生徒に指示した。(石井)

◎参加が決定した１０名の基礎データ

| | 学年 | 英語検定 | 海外経験 | G-TEC スコア |
|---|---|---|---|---|
| A | 1 | ２級 | ６～１２歳　中国 | なし |
| B | 1 | ２級 | ３～７歳　　シンガポール | なし |
| C | 1 | 準２級 | | なし |
| D | 1 | ２級 | | なし |
| E | 1 | ２級 | | なし |
| F | 2 | ２級 | ５～６歳　　アメリカ合衆国 | ６１８ |
| G | 2 | 準２級 | | ６００ |
| H | 2 | なし | | ６０８ |
| I | 2 | 準２級 | | ６０１ |
| J | 2 | なし | | ６３４ |

### ３．事前指導

事前指導のスケジュール一覧を資料②事前学習に示す。

### （1）事前学習レポートとその発表会

当初、事前学習レポートは日本語版を提出し、発表会も日本語で行い、その後レポート・発表会原稿とも英語にする手順を考えていた。しかし、事前指導のスケジュールに示したように、事前学習レポートの概要英語版の提出をまず第１に行い、その後日本語版の提出となった。また、発表会も最初から英語で行うこととなった。これは英語版のチェックを本校英語科非常勤講師の作田久美子先生のご協力の下、本校 ALT のリビー先生にお願いする１学期末の日程上の都合によった。非常にタイトな日程の中であったが、英語の概略版を作田先生、リビー先生にチェックしていただき、それを元にそれぞれ５分間の英語によるプレゼンテーションを行い、日本語レポートも提出した。

発表会では、パワーポイントを使用した発表資料の用意もできる限り行うよう指示したが、大部分の生徒が作成することができた。また、他の人の発表に対して、必ず１回は英語で質問することとしていたが、これについても何とかクリアーすることができた。発表会の様子を資料③の写真に示す。（石井）

### （2）英語によるディスカッションのトレーニング

2013 年 7 月､本校の１､２年生 10 名がジャカルタで行われるアジア･エコリーダーズに出席することとなり、その事前学習を行うこととなった。３回という極めて少ない時間で生徒たちに英語でのディスカッション、プレゼンテーションなどを教えなければならない。英米諸国に住み、日常生活での会話に不足はないといった生徒は皆無であり、ほぼ平均的な日本の高校生たちである。まず、念頭においたのは背景知識の充実であり、その次にディスカッション、基本的なプレゼンテーションのやりかたを教えることであった。ここでそれらについて具体的に述べていきたい。

#### １）背景知識の学習について

生徒たちは英語で各自の自治体のゴミ処理についてレポートを書き、ALT のリビー先生に添削をお願いした。またジャカルタのゴミ問題についての英語の記事を読み、現状と問題点を把握してもらった。その他のゴミ問題についての複数の英語の記事を配布し、それらの記事からゴミ問題で用いられる英語の語彙プリントを作り、配布した。ジャカルタのゴミ問題の記事は、英語が口をついて出てくるように家で何度も音読するよう指導した。

#### ２）ディスカッションについて

基本的なディスカッションのやりかたを説明したプリントと用語集を配布した。英語でディスカッションを行うというのは生徒にとって初体験である。しかも様々な訛りのある英語を理解し、なおかつ自分の意見を英語で述べなければならない。言うまでもなく、生徒にとってハードルが高く、英語力とともに、メンタルの強さが必要となる。しかし､トピックはすでに決まっているので､前もって、意見や提案などを英語で言えるよう準備させた。事前学習２、３回目には米国人

と英国人の先生に来てもらい、２グループに分けて英語でのディスカッションを練習した。

**３）プレゼンテーションについて**

基本的なプレゼンテーション、パワーポイントの作りかたについてのプリントを配布した。生徒たちの作ったパワーポイントをプリントアウトし、大学でプレゼンテーションを教えている先生にチェックをお願いした。また米国人と英国人の先生には生徒のパワーポイントの英語のチェックをお願いした。生徒たちは最後の事前学習会でプレゼンを行い、ネイティブの先生たちのコメントをもらった。

最後に、反省点として、生徒たちに多くのことを詰め込みすぎ、かつ練習時間が不十分であったことがあげられる。普段の授業から、英語で自己表現する習慣と訓練をする必要性を感じた。私にとっても、生徒たちが将来国際的に活躍することを見据えての英語教育について考えさせられる経験であった。ディスカッションの練習の様子を資料④の写真に示す。（作田）

**（３）インドネシア研究者による現地事情のレクチャー**

都立西高校の引率者である佐藤留美教諭の企画で、インドネシア研究者による現地事情のレクチャーが３回にわたり行われた。講演者等のコーディネートは都立西高校生徒保護者の村松氏による。本校生徒の参加は任意としたが、全員が１回は参加することとした。すべて英語によるレクチャーで、参加生徒にとっては英語になれることと、インドネシアの基本的な情報の学習という両面で有意義であった。しかしここでも、レクチャーの日程は、１学期期末考査の最終日、２年農場実習、１年学力テストの最中ということで、強行軍となった。（石井）

**（４）その他**

**１）タイの留学生によるタイ事情のレクチャー**

本校ではタイ王国からの国費留学生を受け入れ、一般生徒と同じ教育課程で入学から卒業までの３年間の教育を行っている。第３学年に在籍する２名の留学生に、タイの環境問題の現状について、レクチャーをお願いした。

**２）参加生徒保護者事前説明会**

参加生徒10名の保護者に対し、事前説明会を実施した。日時は、１学期末の１・２年生の保護者会の日に設定した。今回、主催者のイオン１％クラブの説明会では保護者に対する説明は実施されなかったので、この会が保護者に対する唯一の説明会となった。派遣の趣旨、実施の概要、事前学習を含む派遣までの準備について、学校側から説明を行った。また、海外旅行保険の加入についてもお願いした。現地でのプレゼンテーションやディスカッションに必要な機材についても確認を行った。

### ３）イオン１%クラブによる事前説明会

１学期終業式の午後に、主催者であるイオン１%クラブによる事前説明会が本校で行われ、本校生徒および都立西高校生徒が参加した。内容は、イオングループ環境社会貢献部の中ノ理子氏による「東京ゴミ事情：ゴミ分別に関わる法体制の経緯と現状について」のレクチャーと、担当者によるプログラムの説明であった。昨年の日中高校生交流事業でもそうであったが、イオン１%クラブの対応は丁寧で、生徒を派遣する学校として、安心できるものであった。

### ４）その他

現地で使用する機材として生徒用・教員用併せて６台のタブレット端末一式を学校で用意し、生徒に分担して持って行かせることにした。また、他国から参加する生徒への説明用として、英語版の学校案内パンフレットを１名につき１０部用意し、おみやげ用の学校オリジナルグッズとともに、各生徒に持たせた。（石井）

## ４．実施

イオン アジア・エコリーダーズ 10 日間の行程の概略は次の通りである。現地での活動の様子を資料⑤～⑨の写真に、最終の日程（旅程）表を資料⑪日程表に示す。

| | |
|---|---|
| 8 月 18 日（日） | 成田発 ジャカルタ着 |
| 8 月 19 日（月） | ジャカルタ市内視察、オリエンテーション、<br>ウェルカムパーティー |
| 8 月 20 日（火） | インドネシアおよびジャカルタゴミ事情・環境講義、<br>生徒による各国のゴミ事情のプレゼンテーション<br>Al Azhar high school 訪問 |
| 8 月 21 日（水） | Bekasi ゴミ処理場、環境関連施設視察<br>ジョクジャカルタへ移動 |
| 8 月 22 日（木） | ゴミ銀行視察とボロブドゥール遺跡視察、<br>ジャカルタへ移動 |
| 8 月 23 日（金） | チーム毎にディスカッション、キャンペーン案準備 |
| 8 月 24 日（土） | プレゼンテーション・キャンペーン提言、表彰 |
| 8 月 25 日（日） | イオン環境財団記念植樹参加、バリ島へ移動 |
| 8 月 26 日（月） | バリ環境視察、フェアウェルパーティー |
| 8 月 27 日（火） | ジャカルタへ移動後、帰国（成田着 28 日） |

毎日の活動の中で最も印象に残ったこと・気付いたこと・考えたことを、生徒に記録させた。その記述から日々の活動内容を紹介しつつ、生徒の印象・感想を合わせて記す。

19 日（月）ジャカルタ市内視察、オリエンテーション、ウェルカムパーティー

- バスの中から、ジャカルタ中心街の高層ビル、中間層の人々の家、スラム街を見ました。発展している一方で、貧しい人たちも同じ都市にいるのだと思いました。
- 初めて「スラム」というものをこの目で見ました。川では止まることなくゴミが流れて、生活水を汲み上げる所と排泄する所が同じだったことに本当に衝撃を受けました。
- ６カ国の生徒が初めて顔合わせをしました。自分のチームメンバーに会って、知的で面白い印象を受けました。
- 中国の子の自信に満ちあふれた感じに圧倒された。
- 10 グループのうち半分くらいのリーダーが中国人だった。中国社会ではリーダー役を務めた人が高い評価（成績）を得られる仕組みらしく、普段から常に積極的である。そして英語の力も自信もあるから皆をまとめることができるのだと思った。

今回のプログラムには、日本とインドネシアから 20 人ずつ、中国、タイ、ベトナム、マレーシアから 10 人ずつ、合計 80 名の高校生が参加した。生徒達はＡからＪまでの 10 チームにあらかじめ分けられており、各チームは日本とインドネシアから２人ずつ、他の４カ国から１名ずつ、６カ国８人で構成されていた。オリエンテーションの際に顔合わせが行われ、自己紹介の後にチームリーダーの選出を行った。中国の参加者の積極性が際立ち、10 チーム中、６チームのリーダーが中国、３チームがインドネシア、１チームがタイとなり、日本、マレーシア、ベトナムからはリーダーが出なかった。

20 日（火）インドネシアおよびジャカルタゴミ事情・環境講義、生徒による各国のゴミ事情のプレゼンテーション、Al Azhar high school 訪問

- インドネシアとジャカルタのゴミ処理の特徴と３Ｒについてのレクチャーを受けました。想像よりはしっかりしていたことに驚きましたが、日本の制度を伝えることができれば何か変わるかもしれないと思いました。
- レクチャーは３つともレベルが高く、聞き取れないものもあった。
- 正直言って、レクチャーで何を言っているのかさっぱりわからなかった。
- 講義の内容がとても興味深いものであっと言う間に時間が過ぎた。その後、各国のゴミ事情についてのプレゼンがあり、他の国の人たちが行うプレゼンの上手さにとても驚いた。そして日本のプレゼンをしてくれた人たちも、短い時間しかなかったのに他の国に劣らないくらいのプレゼンをしてくれて良かった。

・ Al Azhar high school でゴミ置き場を見ました。この高校はとても有名で良い場所のはずなのに、ゴミ置き場のにおいはひどく、ハエも飛び交っていました。教育の場でこれでは、ゴミに対する意識も上がりにくいだろうと思いました。

午前中はインドネシア全体とジャカルタのゴミ事情についてのレクチャーを受けたが、内容が専門的である上に、インドネシアなまりの英語であったために、理解が難しい生徒も少なくなかった。一方で「興味深い」「７割は聞き取ることができた」と言う生徒もおり、個人差が大きいことがうかがわれた。

午後から訪問した Al Azhar は、ジャカルタのイスラム系の名門校で、小学生から高校生までが学ぶ大規模な学校であった。登下校の送り迎えに運転手や使用人がくるような家庭の生徒が通う学校で、教室等の施設は整っているが、見学したゴミ置き場は衛生的とはいえず、ジャカルタのゴミ問題の現実を知ることができた。

また、校内には男女別に礼拝のスペースがあり、ちょうど見学中に礼拝時間になったため、Al Azhar の生徒達は礼拝に参加していた。この日に限らず、インドネシアとマレーシアのムスリムの生徒達は、礼拝の時間には他の生徒と別行動でお祈りをしており、生徒達は知識として知っていたイスラム教徒の五行の一つである「礼拝」を目の当たりにして驚く一方、特別視しがちなイスラム教徒の高校生も自分達と変わらぬ普通の高校生であることも認識していた。

21 日（水）Bekasi ゴミ処理場、環境関連施設視察　ジョクジャカルタへ移動

・ ゴミ処理場へ行きました。日本のゴミ処理場にいった時とは違い、本当に臭いが蔓延していました。「スカベンジャー」の村のようなものがあり、（絶対に健康に悪いはずで、）職業がそれしかないにしても、この社会構造は変えなくてはいけないと思いました。
・ 最終処分場は想像を絶するほど臭かった。ゴミの山はいくつもあり、さらに増えているということを知り、この現状はなんとかしなければならないと心から実感した。
・ 工場の人とたまたま２人で話した時に、「日本は処理の制度が整っていてうらやましい」といわれて、少しでもこの人達の力になりたいと思いました。

この日は Bekasi のゴミ処理場の見学に向かったが、数キロも手前からバスの中でも悪臭が感じられるほどであった。現地で講義を聞いている間も悪臭はすさまじく、具合の悪くなる生徒も出た。ゴミ問題の深刻さを感じるとともに、生徒達は処分場でゴミを拾って生活する「スカベンジャー」の存在に衝撃を受けていた。

この後、ジョクジャカルタへ移動する際に航空機が大幅に遅れ、ジョクジャカルタ到着も遅くなり、生徒達には長く厳しい１日となった。体調を崩していた本校の生徒

２名は、ジョクジャカルタへ移動せず、ジャカルタで静養することとなった。

**22 日（木）**ゴミ銀行視察とボロブドゥール遺跡視察、ジャカルタへ移動

- ゴミ銀行では、ゴミを売ってお金を貰えることと、ゴミ自体をバッグにすることを学びました。一般の人がコンポストを利用していることは見習うべき所だと思いました。
- お金をもらえれば多くの人がそのプロジェクトに取り組もうとするし、リサイクル品の回収もより効率的にできると思った。
- ゴミ銀行はインドネシアだけでなく、世界中でも進んだ制度であると思います。しかし課題は、その存在をどのようにして多くの人に知らせるかであると思います。
- ボロブドゥール遺跡では、壮大な自然と異国の歴史に触れたことで、地球の偉大さを実感しました。

ジョクジャカルタでは Bank Sampah を見学した。日本語では「ゴミ銀行」と訳しているが、ゴミを集めて持って行くと通帳にお金が貯まる仕組みで、創設者のバンバン氏から話しを聞くことができた。また、集めたゴミを利用してバッグなどを作成・販売したり、生ゴミをコンポストで堆肥にして利用するなど、３Ｒの活動が積極的に行われていた。

その後、ボロブドゥール遺跡を訪れ、インドネシアの文化と歴史を学んだ。

**23 日（金）**ディスカッション、キャンペーン案準備

- 一日中 Discussion というと不安だったが、思っていたより話しやすい雰囲気だった。
- 一番心配していた日でしたが、私の班はチーム内でさらに３つのグループに分け、まず３人単位でディスカッションしました。互いの意見を言いやすく、私も意見を述べることができました。
- ジャカルタに来るまでに考えていた自分の意見、レクチャーを聞いて感じたこと、日本のすぐれた制度など、自信がなくても伝えてみると、皆は興味を示してくれて、チャレンジするのは大切だと思った。
- 私のチームはリーダーの子が自己主張が激しかったので、ディスカッションというよりは、個々の作業になってしまいました。もっと英語が話せていたら、私ももっともっと意見やアイディアが出せたのにと、悔しかったです。
- 無力だった。一番くやしいと思った日。何もできなかった。英語で表現できるようになりたい！と強く思った。くやしい。負けたくない。

朝の８時から夜中まで各チームは議論し、プレゼンテーションの準備をした。リー

ダーの資質によって、チームの雰囲気が大きく異なることがうかがわれた。また、言葉の壁を越えられずに悔しい思いをしたり、何とか自分の考えを伝えて達成感を感じたり、と生徒の感想も様々であった。

24 日（土）プレゼンテーション・キャンペーン提言、審査・講評、表彰

- プレゼンにおいて、時間を守ること、そして正しい情報を利用することがどれほど大切なのかを身をもって知った。
- 緊張して息が止まりそうで吐きそうになった。時間ギリギリで原稿をカットしたり、臨機応変に活動できた。
- どのグループも素敵な案を考えていたから、すぐには無理でもこれらの案がジャカルタのゴミ問題に役立てばいいなと思う。
- 各グループで色んな考え、プレゼン方法があって刺激になりました。
- プレゼンは上手く行きませんでした。いくら国がみんな違っているといっても人として協力し合わなければ、絶対に成功しないと感じました。文化の違う人が関わり合うのはお互いが努力しないと難しいです。

プレゼンテーションと表彰が行われた。ディスカッションの成果を提言にまとめあげ、５分間のプレゼンテーションとして発表するのは時間的に厳しく、どのチームも夜中まで準備や練習に追われていた。上位３チームが表彰されたが、選にもれたチームもそれぞれ努力を称え合い、達成感を得ていた。また、他のチームのプレゼンテーションから学ぶことも多く、２日間で大きな成果を上げることができたといえよう。

25 日（日）イオン環境財団記念植樹参加、バリ島へ移動

- 植樹をすることで、１本の木を植えるのに、こんなに苦労がいるんだなということがわかり、私たちのような若い世代が、もっと未来のために努力していかなければいけないと思った。
- マングローブを暑い中､腰をかがめて植えたことで「なくすことは簡単でも、取り戻すことは時間がかかるし大変なんだ」と思った。
- 作業時間が１時間もなくて少し物足りなかった。私たちが植えたマングローブが育って緑でいっぱいになると考えると本当に嬉しい!!
- マングローブが育つには長い時間がかかるので、一時的にではなく長い間気にかけてあげられればと思います。
- 10 年後くらいに私たちの植えたマングローブを見に行こうと思う。

イオン主催の記念植樹に参加し、マングローブの苗木を植えた。日本からイオングループの多くの日本人が参加しており、生徒はその規模の大きさに驚いていた。普段の農場実習からすると作業が少なく、物足りなさを感じる生徒もいる一方、疲労と暑さで体調を崩す生徒もでた。

植樹の後は、多くの生徒が楽しみにしていたバリ島に移動した。

**26 日（月）**バリ環境視察、フェアウェルパーティー

- 棚田は２時間かけて来ただけの価値がある。ジャカルタの騒がしく濁った空気とは全く違うものを肌で感じることができた。インドネシアの多様性の一部は理解することができたと思う。
- フェアウェルパーティーでのソーラン節は最高 !!!
- 7：30 からソーラン節の練習をしたし、バスの中でもずっとやったかいがあって、ちょっと失敗したけど盛り上がったから大成功！
- フェアウェルパーティーで歌った“ We are the world ”はとても心に残りました。まだちゃんと話したことのない人と話す最後の機会でした。「キモノ着ないの？」といわれてしまいました。

プレゼンテーションを終えた生徒達は、バリ島ではバロンダンスや棚田の見学、市場でのショッピングなどを満喫した。夜にはフェアウェルパーティーが開かれ、各国毎に出し物が演じられた。日本の生徒達は日本を発つ前に準備ができず、ジャカルタについてから相談を始めてソーラン節を踊ることとした。ホテルの庭やロビーの片隅で練習をしたり、鉢巻きにする布を現地で調達したりと、当日の発表までは大変であったが、他国の高校生も「ソーランソーラン」「どっこいしょー、どっこいしょ」と掛け声をかけてくれるなど会場を沸かせた。民族衣装を着て伝統的な音楽を披露する国もあり、日本人の生徒に「キモノ着ないの？」という質問もでたようである。参加者が一堂に会する最後の機会とあって、生徒達は別れを惜しみつつ楽しんでいた。

**27 日（火）** 帰国

- インドネシアは本当に自然が美しくて、それをずっと保つためにももっとゴミ問題などの環境問題に関心を持つべきだと思いました。
- 今日は他の国の人とお別れで、短い間だったが共にたくさんのことを考えた仲間で名残惜しかった。
- 寺院から海が見えた。海は世界を隔てるものでなく、つなげるものなのだ。島国日本で生まれ育ち、島国インドネシアで感じたこと。この旅を一言で表すと、“私たちは海でつながっている”だ。

最終日は国毎に帰国便の時間が異なり、最後に出発する日本と中国の高校生は、タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシアの生徒を次々と見送った。ジャカルタの空港で、中国の生徒とも別れて、帰国の途についた。最終日も体調不良の生徒がでて、帰国が危ぶまれたが、何とか全員で成田にもどることができた。（菊池）

## ５．事後指導

### （１）文化祭でのポスター発表

９月 21 日（土）、22 日（日）に本校で開催された文化祭において、ポスターによる報告を行った。報告すべきテーマを全員で決めた上で、10 人がそれぞれを分担し、各自Ａ３判用紙１枚にまとめて掲示した。資料⑩に写真を示す。

### （２）全校報告会

研修旅行が夏休み中であったことに加え、９月は文化祭準備で生徒も多忙となり、帰国直後には全校生徒へ報告をする機会を設けることができなかった。そこで、２学期期末試験終了後の 12 月 19 日（木）11:30 ～ 12:30 に、10 月に行われた台湾研修旅行参加者と合同で、海外研修の報告会を行うこととした。

高校には２学年が同時に入れる教室がないため大学の教室をお借りし、１・２年生全員を対象として研修旅行の様子を発表した。２年生が中心となって、インドネシアの生徒が利用していたプレゼンテーションソフトを駆使した映像資料と発表原稿を用意し、10 日間のエコリーダーズ活動内容と成果を報告した。（菊池）

## ６．調査

帰国直後の９月と、半年余り後の 2014 年４月に、アンケート調査を実施した。９月の結果を資料⑫に、翌年４月の結果を資料⑬に示す。

９月の調査では資料⑫に加えて、次の６項目を自由記述で答えさせた。以下にそれらの項目と回答の一部を記す。（菊池）

### （１） アジア・エコリーダーズに参加して学んだこと、得られたこと

- 他国に行く時は、まず自分の国の文化や慣習について良く知り、説明できるようにしておくべき。
- ゴミ問題以外にも私たちが抱えている問題はたくさんあります。私たちを国で区別せず、みんな同じ地球人として協力すれば、今回のエコリーダーズのようにいろいろなアイデアを共有できます。そうすれば解決に近づくことができ、人々の輪も広がるでしょう。
- プレゼン発表をして審査員の方から講評をいただいた時、「人を動かすのは難しい」と言われ、自分の環境問題に対する意識は改められました。いつも「あの人がこうすれば良い」という風に考えてしまっていましたが、そうではなく、「そのためにどうすれば良いのか」と考えなければいけないと思いました。
- 「いろいろな国の人で集まって相談すると、日本人だけの時よりも何倍もバラエティに富んだアイデアが出てくる」ということです。それぞれの国によって「普段どのような生活をしているか」「何が普通か」という基準が変わってくるので、それぞれのものの見方も全く異なります。様々な文化の人と意見を交換するのはとても有意義なことでした。

（２） 最も印象に残った活動　有意義だった活動（とその理由）

- 実際にこの目でスラムやスカベンジャーを見たことは、私にとって印象深いできごとでした。日本にはないと言って良いほど遠い存在だったものが、本当に今もあることなのだと衝撃を受けると同時に悲しい気持ちになりました。貧富の差が大きくなりつつある今、この社会構造を変えるにはどうしたらいいのか、解決することはできるのか、答えが見つかりそうに思えず、泣きたくなりました。
- 最終処分場見学・・・私としては最も嫌だった活動でもありますが、あの光景は衝撃的でした。おそらく忘れることはできないと思います。私たちはあのようなことが起きているということを知っていなければならないと思います。
- やはりディスカッションが最も印象に残っている。朝８時から夜中２時まで食事以外休みなしで、みんなフルに頭を使って、どうすればゴミ問題がより良くなるかを真剣に話し合ったことはとても心に残っている。どの国からの人も自分の意見を堂々と言って、お互いを理解しつつ、自分の考えもはっきり言えたからとても有意義なディスカッションになったと思うし、とても印象に残った。
- Discussion と Presentation の時間。自分は英語力がないからとにかく迷惑をかけないようつつしんで行動しようとしていた自分から、とにかく発信していこう !! という自分に変わることができた。

（３） エコリーダーズに参加して成長したこと

- 積極的に自分の意見を言えるようになりました。黙っていれば誰も見てくれません。自分から言い、意見を聞くことの大切さを学びました。また、英語を使う意欲が上がりました。使うことによって英語力が伸びると感じました。
- ９日間にとても多くの人と出会ったことで、私の考えの幅や視野が広がりました。今まで一度も考えたことのないことが、海外では問題であったり、彼らは私とは違ったもののとらえ方をしていて、自分の知識の浅さや思い込みの部分を反省させられました。他人を理解していくには自分が相手に興味を持ち、自分だけの考えを押し付けないようにしないといけません。そのためには勉強も必要です。他国の生徒はいつもすごく勉強しているので、私も負けずに頑張らなければと思いました。
- チームでのディスカッションの中で、チームメイトが「その案だと貧しい人は動かせても、豊かな人は動かない」と言う意見を聞いて、１つの考えに対してあらゆる側面から物事を考えなければならないと思いました。いつでも落ち着いて、独善的にならないような物の考え方を学んだと思います。

・英語に対しての過度な恐怖心が消えたことは大きいと思います。私はもともと英語を話すのがあまり得意ではなかったので、内心プログラムに参加するのをとても恐れていたのですが、「コミュニケーションをとりたい」という気持ちさえあれば「伝える、理解する」ということはできるんだ、ということがわかり、これからもどんどん異文化交流していきたいという気持ちが高まりました。

**（４） 他国（他校）の参加者との活動を通じて気付いた自分の長所および課題**

・誰とでも仲良く友達になれる性格だと自負しています。今回も多くの人と関わり、繋がることができたと思っています。しかし、英語が上手く使えない点、それによりあらゆることにチャレンジできなかった点が課題だと思いました。ディスカッションの時など、もっと意見を発したかったです。
・課題は多く見つかりましたが、その一つは積極性に欠けていることです。レクチャーの後、他国の生徒は自ら情報を引き出そうと質問をしていましたが、私は結局一回もすることができませんでした。それと話す力、英語力が欠けていることです。英語教育のしかたが違うのだろうと思いますが、負けずに頑張りたいと思います。
・Listening 力が足りないこと。同じ国の人同士でかたまりやすいこと。

**（５） 他国の参加者との交流を通じて、アジア各国のイメージは変化したか**

・中国の人たちは予想通りとても積極的だった。けれどもっとがんがんくるかと思っていたのに、とても優しい人たちばかりで中国のイメージが少し変わった。その他の国に関しては、あまり身近に感じていなかったが、日本のアーティストやアニメを良く知っている人がいてびっくりしたし、自分もアジアの国のことについてもっと勉強しないと恥ずかしいなと思った。
・特にタイ、マレーシア、ベトナムは普段なじみのない国だが、思っていたより日本との共通点が多かった。５カ国に共通する点はフレンドリーで優しくて頭が良くて素直で何でも学ぼうとする意欲があること。見習いたい。
・とても変化が大きかった。イスラム教に対して、気付かないうちに偏見があったようで、「怖い」というイメージがどこかしらにあったのですが、皆とても優しくて面白いし、インドネシアとマレーシアは 180 度イメージが変わりました。
・中国も良い人ばかりでびっくりした。メディアにまどわされてはいけない。「何人」というアイデンティティの前に、1 人の人間なんだということを実感した。

**（６） 今後に向けて　将来の抱負など**

・インドネシアの情報が少なすぎる。インドネシアと日本の架け橋が足りない。

そして私がその橋になりたいと思い始めた。東京外国語大学のインドネシア語学科を目指すことに決めた。留学してインドネシアのことをもっと肌で感じたい。７年後の東京オリンピックでボランティア通訳としてインドネシアの人を日本でサポートしたい。それが私の近い将来の目標である。

- 今回のプログラムでは皆仲良く付き合うことができましたが、政治上では様々な問題もあります。政治のせいで仲が悪くなるということはありませんが、その動きにも注目し、他国への理解が広がれば良いと思いました。
- 未来を担う者として、現在の努力の必要性を感じました。エコリーダーズのみんなと、将来どこかで、世界で活躍する大人として会いたいと思います！
- 環境問題の大きさをあらためて認識することができ、これからの世界の役割を担うのは私たち若い世代だから、しっかりとこれから先のことを考えていきたいと思った。小さなことからしか始められないと思うけれど、身近な人から環境問題の対策を広めていって、いつか世界中の人と同じ一つの目的で対策をできたらいいと思う。
- 私はエコリーダーズの友達と約束をしました。「英語を巧みに使えるようになり、必ずみんなで再会する」です。今はまだエコリーダーズとしても何も大きなことをできません。だからその分、日々の生活で出来る事を実行し、将来、自分達の地球を変えられるように、意思疎通の手段の英語をマスターして力を付けておきたいです。

## ７．考察とまとめ

### （１）参加生徒の選考

今回の企画は「環境」をテーマとした多国間交流事業である。本校の教育活動の中では初めての取り組みであった。参加したいという意欲のある生徒がいなければ成り立たないものであるが、多くの応募があった。参加し現地で活動するための資質や能力が応募者全員にあったかというと、そうではない生徒も散見されたが、参加してみたいと考える意欲のある生徒が多くいたことは１つの収穫であり、今後の国際交流、グローバル人材育成についての本校生徒のモチベーションを確認することができた。

応募者の選考については、特に１年生は入学直後ということもあり、判断する資料が不足していた。環境問題に関する興味や関心、課題意識については、今回選考に当たったのが化学・地理の教員であったため、ある程度の専門知識を持って選考に当たることができた。英語コミュニケーション力の評価が１つの課題である。英語検定の取得級、海外生活経験、入学試験の成績（１年生）、１年次の英語の成績と G-TEC スコア（２年生）だけでは本当の実力をはかるのが難しかった。英語による面接を行うということも考えられたが、応募者選考の時間的な問題と、選考側の英語で面接ができるスタッフの問題で実現できなかった。今後の検討課題である。

（石井）

**（２）事前指導**

事前指導は時間の確保と英語のトレーニングのスタッフの確保が、もっとも難しい問題であった。４月 15 日に正式依頼状がイオン１％クラブより届き、募集・選考を行い、参加者が決定したのが、５月 10 日、その後事前学習の連絡を行った。学校では５月下旬に体育祭、１ヶ月後の６月下旬には１学期期末考査など、学校行事が続く。その合間を縫っての事前学習の進行は、スケジュール的に大変タイトで苦しいものであった。特に期末テスト終了後、夏休みにはいるまでの期間は、本校では教育実習期間に当たっているため、終業式前日まで通常授業が行われている。事前学習の日程にあるように、休日も含め連日の活動となった。

一方、英語のトレーニングのスタッフ確保については、当初お茶の水女子大学にきている留学生を活用することを考えた。英語科の専任スタッフが、今年度は１名欠員ができており、通常の授業の展開だけで手一杯だったことによる。附属学校部長を通じて、大学の英文科と連絡を取り、留学生（大学院生）の派遣を要望した。しかし意志の疎通がうまくゆかず、こちらが考えているような留学生を確保することができなかった。そこで、ALT のリビー先生と、ディベイトやディスカッションの指導に実績のある作田久美子先生の協力を仰ぐことにした。ディスカッションのトレーニングをお願いした米国人と英国人の先生も作田先生のご紹介によるものである。なお、これらの費用は本校教育後援会・国際理解教育補助費でまかなった。（石井）

**（３）現地で**

現地での活動で課題となったのは、英語力と体力である。

英語力に関しては、本校では参加者の選抜にあたり英語力は考慮したものの、それよりも環境問題に対する意識を重視して選んだ。一方、日本から参加したもう１校の都立西高では、英語によるディスカッションに参加しうる英語力を重視して参加者が選ばれており、本校の生徒の英語力とは大きな差がみられた。実際にレクチャーやディスカッション、プレゼンテーションの場で、英語力のなさを痛感した生徒が多く見られ、参加者には一定以上の英語力があることが望ましいことは確かであろう。しかし、同じアジアの高校生と自分の力の差を感じ、今後の努力につなげることもこのプログラムの意義の一つだと考えている。

英語力以上に問題であったのが体調管理である。約 10 日間のプログラムに参加した 80 人ほどの高校生の中で、大きく体調を崩したのはほとんどが日本からの参加者、それも本校の生徒達であった。開始直後から発熱や体調不良を訴える者があり、２人はジョクジャカルタへの移動ができず、ジャカルタにとどまることとなった。また、バリ島へ移動する際にも１人が発熱し、バリの空港から病院に直行、入院加療する事態となった。翌日には退院でき帰国のめどが立って一安心した所、バリ島からジャカルタに戻る際にまた別の生徒が発熱し、インドネシアからの出国が危ぶまれた。空港内の診療所で医師の診断を受け、幸いに出国の許可がでたものの、

飛行機の中でも高熱が続き、キャビンアテンダントの皆様に心配とご迷惑をおかけした。また、本校からの引率者が１名のみであったため、引率教員が病人に付き添うと、その間他の生徒達の指導をする者がいなくなり、西高の佐藤先生やイオン１％クラブの関係者の皆様にお世話をおかけすることとなった。

本校の 10 人の参加者のうち体調を崩した者は４名にのぼったが、彼女らは日本の学校生活では健康上の問題はほとんどない生徒であった。直前の部活動の合宿による疲労の蓄積、冷房による建物内外の温度差、慣れない食事、長時間に及ぶ研修日程や長距離の移動、全て英語という環境など、普段は健康な生徒でも負担が大きかったものと思われる。しかし、同じ条件で過ごす他国の生徒や西高の生徒達は概ね健康であったことを思うと、本校の生徒の弱さは明らかである。今後の参加者には環境の変化に耐えうる心身の強さ、自己管理能力の高さが求められる。（菊池）

**（４）事後指導**

本校ではこうしたプログラムに参加した経験がなく、事前準備の期間も短かったため、どのように事後のまとめを行えば良いのか、参加前にきちんと想定して準備することができなかった。また、帰国直後に文化祭、ダンスコンクールと大きな行事が続くため、事後指導のために生徒を集めることも難しく、プログラムの成果を参加者で共有することも、他の生徒たちに還元することも十分にできなかったのは大きな反省点である。事後の反省、成果の共有、報告、発信までを想定して、プログラムに臨めるよう、改善していくことが必要である。（菊池）

**（５）今後に向けて**

今回の企画のような多国間交流事業は、実践結果から、グローバル人材育成にとって大変有効なものであることがわかる。しかし提携校との交流などとは異なり、学校単位で企画・計画・実施することは難しいものである。「イオン１％クラブ」というグローバル企業の社会貢献組織が主催されたことの意義は大変大きく、このような企画に本校の生徒 10 名が参加できたことは大変ありがたいことであった。

また、現地に出向く実施の期間は 10 日間であるが、生徒募集から選考、事前指導、実施、事後指導の一連の流れのすべてがグローバル人材育成には重要であることも、今回の実践を通じてより強く認識することができた。事前指導・事後指導のプログラムをどれだけ充実したものにできるか、成果を上げる鍵である。

幸い新年度もイオン１％クラブからは参加要請をいただくことができた。また、文部科学省のスーパーグローバルハイスクールに指定を受けることができた。この取り組みもスーパーグローバルハイスクールの研究の一環として位置付け実施することとなる。具体的には２年生で行う「グローバル総合」の１講座として、授業の中で計画的に事前指導・事後指導を行う。大学の環境問題の専門家にも協力が得られる。また、課題の１つである英語コミュニケーション力の強化については、お茶の水女子大学に在籍する外国人留学生の活用、外国語ｅ－ラーニングシステムの活用などを試みる。事後指導と成果の発信についても、ホームページの活用などの方

法も考えられる。

さらにこのようなプログラム全体を下支えするのが生徒の興味・関心・意欲の強さであることも再認識することができた。この土台を育てるのは、本校の教科全体で行っている教養教育や、生徒主体の学校行事であると考えている。

最後に、今回の国際交流を企画・実施してくださった、イオン１％クラブ事務局長の友村自生様、小林美佳様はじめ事務局の皆様に感謝申し上げるとともに、引き続きご援助をいただくことをお願いして結びとする。（石井）

**資料①　選考資料**

2013.5.2

イオンエコリーダーズ応募の皆さんへ

応募者が多数でした。また、プログラムには「英語のレクチャーを聴いたあと、その内容について英語でディスカッションを行い、その結果を発表する」という内容が含まれ、環境問題に（今回のテーマはゴミ問題）関する強い興味・関心・意欲、相応の英語力が要求されています。これらを中心に選考を行います。選考の資料となる以下の項目について回答し、５／７（火）８：１０までに副校長石井に提出して下さい。

１．環境問題に関する興味関心について
「アジアを中心とする環境問題とくにゴミ問題についてあなたの考え、今回主張したいと思うことを述べて下さい。」

２．英検等、英語力を客観的に示すものがあれば示して下さい。２年生は１年次の成績について自己申告して下さい。
英語Ⅰ（　　）　教養基礎英語Ⅰ（　　）　ＧＴＥＣスコア（　　）

３．以下の項目について自己評価をして下さい。

①環境問題に対する興味・関心・意欲

| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| とても高い | かなり高い | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |

②英語のコミュニケーション力

| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| とても高い | かなり高い | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |

③今回のプログラムへの参加意欲

| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| とても高い | かなり高い | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |

４．海外在住経験等があれば書いて下さい。

①期間（　　）才（　　）ヶ月　～（　　）才（　　）ヶ月

②在住国名（　　）

③現地での使用言語等（　　）

年　　組　　番　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

**資料②　事前学習**

１．事前学習レポートとその発表会

（１）学習内容

１）自分が住んでいる自治体のゴミ収集について、調べる。
分別方法・収集方法、収集されたゴミの行方、ゴミ処理の料金、ゴミ処理予算・施設・従事者、資源ゴミの活用、ゴミ収集の歴史（変化）、他の自治体と比較しての特徴と課題など
２）日本のゴミ処理の歴史、３Ｒ（５Ｒなど）活動の現状と課題
３）その他　各自の興味関心に応じて

（２）提出レポートおよび発表会準備

１）Ａ４サイズの原稿用紙・レポート用紙などにまとめる。
（５枚以上）
２）ワープロ、パソコンの使用可
ただしコピー&ペースト禁止（引用、参照は明確に）
３）発表用のレジュメを作成する。Ｂ４サイズ２枚以内
４）５分間の発表原稿を作成する。
（パワーポイントを必ず使用すること）

（３）日程

１）事前学習レポートの概要英語版の提出　７／４（木）
２）事前学習レポート日本語版の提出　　７／８（月）
３）レポートの概要英語版のＡＬＴリビー先生のチェック後の返却とレクチャー　７／１１（木）１５：００～１６：２０　ＬＬ教室
４）事前学習レポート発表会
７／１２（金）１５：３０～１７：３０　社会科室

２．英語によるディスカッションのトレーニング

（１）内容と講師

１）英語版レポートおよび発表原稿に基づくディスカッション
２）作田久美子教諭（本校英語科非常勤講師）、Kira さん（米国人女性）、　Aaron さん（英国人男性）

（２）日程

１）７／１３（土）９：３０～１２：００　ＬＬ教室
２）７／１５（月）９：３０～１２：００　ＬＬ教室
講師：作田先生、Kira さん（米国人女性）、Aaron さん（英国人男性）

３．インドネシア研究者による現地事情のレクチャー

（１）７／１（月）　１８：００～１９：００
People, City, History in/of Jakarta
（２）７／２（火）　１８：００～１９：００
Campon life, water, garbage at Chikini
（３）７／３（水）　１８：００～１９：００
Problems on urban ponds in Jakarta
講師：インドネシア研究者

（４）７／14（日）　１７：００～１８：００
インドネシア事情について　　講師：春日原大樹氏
（西高卒業生かつ西高生徒保護者、経済産業省勤務、
インドネシア在住歴あり）

４．その他

（１）タイの留学生によるタイ事情のレクチャー
７／１０（水）１５：３０～１６：３０　社会科室
（２）参加生徒保護者事前説明会
７／１３（土）１１：３０～１２：００　応接室
（３）イオン１％クラブによる事前説明会
７／１９（金）　お茶の水女子大学附属高等学校　３階社会科室
１）１５：００～１６：００　事前勉強会
イオングループ環境社会貢献部　中ノ理子
「東京ゴミ事情：ゴミ分別に関わる法体制の経緯と現状について」
２）１６：１５～１６：４５　　プログラム説明会

資料③　事前学習レポート発表

資料④　事前学習　ディスカッションの練習

資料⑤　Al Azhar 高校にて

資料⑥　Bank Sampah にて

資料⑦　ディスカッションの様子

資料⑧　プレゼンテーションの様子

資料⑨　マングローブの植樹

資料⑩　　文化祭での展示

資料⑪　日程表

## Aeon Asia ECO-LEADER 2013
## itinerary

2013/8/18

| Day | Date | Place | Transportation | Time | Schedule |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 8/18 (Sun) | | JL725 | 10:50 | Japan Group: Narita Airport Departure |
| | | | | 16:35 | Arrive at Soekarno Hatta Airport, Jakarta |
| | | | VN831 | 10:00 | Vietnam Group: Tan Son Nhat Airport Departure |
| | | | | 13:00 | Arrive at Soekarno Hatta Airport, Jakarta |
| 2 | 8/19 (Mon) | Borobudur Hotel | CA281 | 9:05 | China Group: Beijing Airport Departure |
| | | | | 12:20 | Arrive at Soekarno Hatta Airport, Jakarta |
| | | | TG403 | 8:00 | Thailand Group: Suvarnabhumi Bangkok |
| | | | | 11:05 | Arrive at Soekarno Hatta Airport, Jakarta |
| | | | MH717 | 10:40 | Malaysia Group: Kuala Lumpur Departure |
| | | | | 11:20 | Arrive at Soekarno Hatta Airport, Jakarta |
| | | Sumba Room, Singosari room, 1F | | 16:00-17:30 | Orientation |
| | | | | 19:00-21:00 | Welcome reception |
| | | | | | Stay at Borobudur hotel |
| 3 | 8/20 (Tue) | Borobudur Hotel Singosari room | | 7:00-8:30 | Breakfast, Bogor Caffe, Lobby level |
| | | | | 8:30-9:20 | Lecture 1: "Waste Management in Indonesia" by Dr. Rasio Ridho Sani, Deputy Minister for Management of Hazardous Waste and Solid Waste |
| | | | | 9:25-10:15 | Lecture 2: "Waste Management in Jakarta" by Jakarta Government |
| | | | | 10:30-11:20 | Lecture 3: "3R in Jakarta" by Dr Samsuhadi, Dana Mitra Lingkungan |
| | | | | 11:40-12:30 | Presentation on waste by students |
| | | | Bus | 13:30 | Leave for Al Azhar high school after lunch |
| | | | | 14:30-17:00 | Visit to Al Azhar high school |
| | | | | | Inspection for Household waste disposal at Al Azhar |
| | | | | | Stay at Borobudur hotel |
| 4 | 8/21 (Wed) | Jakarta Yogyakarta | | 6:00-7:00 | Breakfast, Bogor Caffe, Lobby level |
| | | | | 7:30 | Checkout and Gathering in front of Banda Room, Lobby level |
| | | | | 7:45 | Leave hotel for Bekasi |
| | | | Bus | 9:30 | Bekasi waste treatment plant |
| | | | | 16:30 | Arrival at Jakarta airport |
| | | | GA252 | 17:20 | Departure |
| | | | | 18:40 | Arrival at Yogyakarta (Adi Sucipto) airport |
| | | | | | Stay at Novotel Yogyakart hotel |
| 5 | 8/22 (Thu) | Yogyakarta Jakarta | | 6:00-7:00 | Breakfast, Kedaton Restaurant, Novotel Yogyakarta |
| | | | | 7:15 | Leave Bank Sampah after Hotel checkout |
| | | | Bus | 8:15 | Visit Bank Sampah in Bantul |
| | | | | 8:30-11:45 | Recycling experience and lectures by the founder, Mr. Bambang |
| | | | | 14:00 | Learning of Indonesian cultures & history - Visit Borobudur Temple |
| | | | | 15:30 | Arrival at Yogyakarta airport |
| | | | GA219 | 19:30 | Departure |
| | | | | 20:45 | Arrival at Jakarta airport |
| | | | | | Stay at Borobudur hotel |
| 6 | 8/23 (Fri) | Hotel Room, Lobby level | | 6:30-8:30 | Breakfast, Bogor Caffe, Lobby level |
| | | | | 9:30-15:00 | Discussion and Presentation preparation |
| | | | | 16:00-22:00 | Spare time for presentation |
| | | | | | Stay at Borobudur hotel |
| 7 | 8/24 (Sat) | Sumba Room, Manama 3F Borobudur Hotel Sumba Room, 3F | | 9:30 | Student gathering at Sumba Room, 3rd F |
| | | | | 10:00-12:00 | Team Presentation and the campaign suggestion (part 1) |
| | | | | 12:00-13:00 | Lunch |
| | | | | 13:00-14:50 | Team Presentation and the campaign suggestion (part 2) |
| | | | | 15:00-18:00 | Sight seeing |
| | | | | 19:00-21:00 | Result announcement, Award Ceremony and Reception |
| | | | | | Stay at Borobudur hotel |
| 8 | 8/25 (Sun) | Jakarta Denpasar (Bali) | Bus | 5:00-6:30 | Breakfast, Bogor caffee |
| | | | | 6:30 | Checkout and Gathering |
| | | | | 7:00 | Leave hotel for troop planting |
| | | | | 8:00-11:00 | Tree Planting and Participation in the opening ceremony |
| | | | | 11:45-14:00 | Refreshment and lunch at Sheraton Bandara hotel |
| | | | GA412 | 15:50 | Departure |
| | | | | 15:55 | Arrival in Bali |
| | | | | | Stay at Aston Kuta hotel |
| 9 | 8/26 (Mon) | Aston Kuta Hotel | | 6:30-8:00 | Breakfast, Sugar&Spice restaurant |
| | | | | 8:00-17:00 | Leave hotel for Bali tour |
| | | | | 17:30-18:30 | Sunset viewing (option) |
| | | | | 18:30 | Farewell Party |
| | | | | | Stay at Aston Kuta hotel |
| 10 | 8/27 (Tue) | | GA419 | 18.25-19.25 | Japan group: Denpasar Departure - Jakarta Arrival |
| | | | JL726 | 21.55-7.25 | Jakarta Departure - Narita Airport Arrival (8/26) |
| | | | GA405 | 8:45-9:45 | Vietnam group: Denpasar Departure - Jakarta Arrival |
| | | | VN630 | 13:45-16:40 | Jakarta Departure - Hochimin Arrival |
| | | | MH714 | 12:50-15:50 | Malaysia Group: Jakarta Departure - Kuala Lumpur Arrival |
| | | | GA405 | 8:45-9:45 | Thailand group: Denpasar Departure - Jakarta Arrival |
| | | | TG434 | 12.35-16.05 | Jakarta Departure - Bangkok Arrival |
| | | | GA419 | 18.25-19.25 | China group: Denpasar Departure - Jakarta Arrival |
| | | | GA990 | 22.40-6:55 | Jakarta Departure - Beijing Arrival (8/28) |
| | | | GA405 | 8:45-9:45 | Indonesia group: Denpasar Departure - Jakarta Arrival |

~subject to change~

資料⑫　　＿＿＿ 年 ＿＿＿ 組 氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

## エコリーダーズ（2013 年 8/18～8/27）事前学習・準備についてのアンケート

### 1　事前学習について

| | | とても役に立った | まあまあ役立った | あまり役立たなかった | 役に立たなかった |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ゴミ問題の日本語レポート作成 | 4 | 6 | | |
| 2 | ゴミ問題の英語のパワーポイント作成 | 4 | 5 | 1 | |
| 3 | 英語のプレゼンテーション | 7 | 2 | 1 | |
| 4 | 英語のレポート添削 | 6 | 3 | 1 | |
| 5 | ネイティブの先生によるディスカッションの練習 | 9 | 1 | | |
| 6 | インドネシアの専門家による講義（西高での事前学習） | 1 | 8 | 1 | |

### 2　学校での事前学習・準備の他に、自分で行った準備や学習があれば記してください。

・イスラム教についてあまり知らなかったので、何冊か本を読んで調べました。ゴミ問題についての英単語をＡＥＯＮの方からもらったのとは別に学習しました。
・家で英語をしゃべるようにした。
・英語力が心配だったので、毎日少しずつ英語を聞くようにした。
・図書館でゴミやインドネシアに関する本を読んだ。
・区でちょうど環境についてのイベントをやっていたので、そこで人に話しを聞けて、とても役に立った。また、ネイティブの先生とのディスカッションや作田先生の授業で聴いた内容や自分で考えたことなどを事前に英語でまとめた。（Word を利用して）もらった資料などの自分なりのまとめなども行った。
・インドネシアの文化や生活について。日本の文化を英語で説明できるようにした（自分で用意したプレゼントを渡すときに言えるように）。日本のゴミ事情についての英訳。
・環境単語の暗記。英語のヒアリングのＣＤ。
・インドネシアで訪れる場所、施設、創設した人などを調べておいた。
・近所の友達の家にオーストラリア人の老夫婦が来た際に、少しお邪魔して英語で話させてもらった。

### 3　来年度以降の参加者が、どのような事前準備や学習をしたらよいか、助言してください。

・現地の状態を知ることも必要ですが、まずは自分の国の状態を知ることが大切だと思います。
・プレゼンテーションの練習も大変ためになりましたが、それ以上にそのテーマについて、ディスカッションすることがとても大切で役に立つと感じました。
・プレゼンや現地の状況についての事前学習ははっきり言って必要ないと思う。日本で調べた現地の状況と現地の人が思っている問題で「ズレ」が生じていた。それよりもディスカッション!!
「日本ではこうだよ」ということをすぐに英語で口から出るような練習。毎週ＡＬＴの方達とディスカッションができればすてき。
・参加国全ての国の、いろいろな情報などを（歴史とか）知っておくのが良いと思います。また、課題の解決方法を事前に考えておくことも必要だと思います。
・学習するテーマについての英単語を、新しく 50 個は覚える。専門的な言葉がわからないと、現地での勉強会が理解できず、つまらないから。
・現地では突然英語だらけになるので、事前にできるだけ英語にふれておくのが大切！　また、レクチャーもほぼ英語になるので環境に関する英単語を耳で聞いて判断できるようにする必要がある。自分の考えや意見をあらかじめ英語でまとめておくと、ディスカッションのときに大いに役立ちます。
・英語力はもっともっと上げた方がいいというより、上げなければ周りのテンポになかなかついていけません。他の国の人たちはネイティブ並みです。でもそこで引けを取らずに簡単な英語でもいいから積極的に自分の意見を言えるように、事前準備の時からしゃべる努力をしたらいいと思います。あと、他の国の人は日本のゴミ事情や環境問題の対策にとても興味があるので、そこは英語で言えるようにした方がいいと思います。
・英語でのディスカッションに慣れておく必要がある。
・とにかく英単語をよく覚えて、めちゃくちゃでも良いから外国人と英語で話す機会をたくさん作ると良いと思う。
日本の文化（着物とか平仮名・片仮名・感じの違いなど・・・）を英語で説明できるようにしておくと良い。

資料⑬

140409　**エコリーダーズ参加者アンケート**　（　）年（　）組　氏名（　　）

1エコリーダーズに参加して、どのような意識の変化がありましたか。(複数回答可)

| | | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 海外の文化や歴史への興味関心が広がった | 10 |
| 2 | 日本の文化についても興味・関心が広がった | 6 |
| 3 | 国際政治や外交などへの興味・関心が広がった | 7 |
| 4 | 国際的な経済活動への興味・関心が広がった | 5 |
| 5 | 環境問題など国際的な課題への興味・関心が広がった | 8 |
| 6 | 留学したいと思うようになった | 4 |
| 7 | 海外で働きたいと思うようになった | 3 |
| 8 | 語学力を高めたいと思うようになった | 10 |
| 9 | 誰とでもコミュニケーションできる積極性を持ちたい | 8 |
| 10 | その他 | 1 |
| 11 | 特に変化は無かった | 0 |

2　帰国後に意識の変化を何らかの行動に移せましたか。(複数回答可)

| | | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 海外のニュースや記事を積極的に視聴 | 8 |
| 2 | 関心を持ったテーマについて自主的に学ぶようになった | 4 |
| 3 | 講演会やセミナーに積極的に参加するようになった | 2 |
| 4 | 授業に積極的に取り組むようになった | 7 |
| 5 | 語学力を高める努力をするようになった | 10 |
| 6 | 英語の検定試験を受けるようになった | 2 |
| 7 | 研修で知り合った友人と連絡を取り続けている | 9 |
| 8 | その他 | 1 |

2のテーマ回答　：　アジアの開発途上国について　環境と経済活動の両立について
日中関係、国連　浮世絵・仏像

4の科目について　：　英語 6　世界史 2　日本史 1　地理 2

5の英語以外の外国語　：　中国語 2

3　意識や行動の変化は結果として表れましたか。

| Yes 9人 | No 1人 |
|---|---|

ＹＥＳ

・アジア圏のニュースに興味を持つようになりました。身近なエコ活動を自分でするようになりました。
・G-TEC のスコアが、７段階中７になった！
・ジャカルタで、実際にスラムにすんでいる人を見て、どうしたら貧しい人が少なくなるのか考え、知識を増やそうと講演に行ったりした。また、英語の G-TEC では最高の Grade７を取得できた。
・アジア人に対する認識＝身近に感じるようになった。　G-TEC の成績が上がった。
・海外についてのニュースを積極的に聞くようになった。
・今まで「私に無理」と初めから決めつけていたものを、一度チャレンジしようとするようになった。そこから新しいものが見えてくると思う。
・しばらく検定などは受けていないが、英単語をあれからすごく覚え始めた。海外ビデオもよく見て耳をきたえている。
・環境問題についてもっと因果関係なども深く知りたいと思うようになり、さらに東南アジアのニュースについてもっと興味を持つようになった。そして自分自身も少しでもいいので環境改善の取組が行えるよう、身近なところから意識しています。
・初めて TOEIC を受けて６３５点取ることができたから。

ＮＯ　・英語の学習を続けているが、テストなどでは特に反映されていなかったから。

4　意欲や興味・関心の高まりは現在も継続していますか。

| Yes　10人 | No　0人 |
|---|---|

理由

・海外の友達と連絡を取り合ったり、インドネシアについてのニュースを見たりする度に、このプログラムを思い出し、今もそれが自分の中でモチベーションになっています。
・英語は特にスピーキング、リスニングを重点的に勉強しているから
・日本文化について他国の人に説明できるようになりたいと思い、浮世絵や仏像について調べ、友達と見に行ったりしている。
・ジャカルタやエコリーダーズの子達の国についての意識が高まったから、ニュースなどでも積極的に見ている。
・環境に興味が出た。
・エコリーダーズに参加して、自分の力を発揮することがあまりできなかった後悔の気持ちがあり、リベンジしたいから!!　知り合った友達と連絡を取り続けているから意欲は薄れない。
・より広い視野を持てるようになり、海外に行くためには、今のままではだめだと感じ続けているから。
・読めない英単語があると悔しく思うようになり、毎日英単語帳を持って勉強している。
・環境問題について海外にも目を向け、参加したことで知識や考えが深まったので、より詳しく細かい所も知りたいと思うようになったし、まだまだ自分の知識が甘い点も痛感させられたので、広い視野を持って知りたいという気持ちが強いです。
・昨年は事前の英語学習をもっとしておけば良かったという後悔がありました。聞き取れない、話せないが多かったからです。だから今年も参加したいです!!

5　エコリーダーズは、あなたにとってどんな意味を持ちましたか。

・エコリーダーズの参加者がとても積極的で学力も高く、本当に刺激を受けました。自分の伝えたいことがあっても完璧に伝えられないもどかしさも感じていました。自分をより高めたいと向上心を持つようになったと思います。また、本来の目的である環境問題にも知識を深めることができ、“エコ”ということにも興味がわきました。
・環境問題について考える機会となったのはもちろん、同年代の様々な国から来た学生と話せたということが大きかった。自分の英語力が他国の学生と比べて低いことも認識し、学習に対し意欲もました。
・海外にはいろんなすごい人がいるから、日本にとどまっているのはもったいないと身を以て感じ、継続して意識的に勉強するモチベーションになった。
・アジア諸国の同年代の人に比べたら自分は本当に、能力もないし、英語もできないしで、すごく落ち込んだけど、いつかは世界で国際的に働きたいと思っているので、そのために、今何をすべきか、とか、「できる」同年代に近づくためにはどういうことが必要なのか考えさせられた。本当に良い体験だったと思う。
・とりあえずやってみれば、必ず自分に何か残るっていうことを心から感じました。
・自分の英語力、コミュニケーション能力の現状を知らされた。もっと頑張らなければいけないという気持ちにさせられた。
・広い視野を持つことができた。海外で友達が増えた。夢にちょっと近づけられた。英語の大切さを痛感した。
・海外の学生の勉強への熱心さを受け、自分の学習への意識を高めた。積極的になりたいと思った。
・環境問題については３、４に記述している通り、これからもっと追求していきたい。他国の方との会話のツールとしての英語の重要さが身に染みて感じられた。日本にいるだけではやはりわからない大切さがわかり、これからはもっと意識して使える英語の学習に力を入れたいと思う。他にも日本の文化や他国の文化を知ることで、お互いのことを理解しあい、そこからまた議論を深めることができた。エコリーダーズに参加したことで今の自分がどうあって、これからどうすれば良いのかが見えたような気がします。
・積極性、語学力をもっと上げたいと思った。海外の友達ができた。他国を身近に感じるようになった。